

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 3 4	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Variations in alcohol-metabolizing enzymes in people of East Indian and African descent from Trinidad and Tobago.</p> <p>トリニダードトバゴにおけるアルコール代謝の遺伝子変異について アフリカ系住民とインド系住民の比較</p>	
執筆者	
Moore S, Montane-Jaime LK, Carr LG, Ehlers CL.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Res Health. 2007;30(1):28-30. Review.	
キーワード	
アルコール依存症、トリニダードトバゴ、遺伝環境、遺伝子多型、ADH、ALDH	
要 旨	
<p>トリニダードトバゴの人口構成は、主にインド系とアフリカ系の人々からなる。アルコール依存症の頻度はこれら二つの民族で異なっている。アルコール脱水素酵素ADH 1B や ADH 1C と アルデヒド脱水素酵素 ALDH 1 や ALDH 2などのアルコール代謝酵素をエンコードしている遺伝子の変異によってこの違いが説明できるのか調査されてきた。ADH 1B (ADH 1B*3) をエンコードしている変異遺伝子がアフリカ系住民のアルコール依存症のリスク低下と関係しており、ADH 1C (ADH 1C*1) をエンコードしている変異遺伝子がインド系住民のアルコール依存症のリスク低下と関係していることが研究によって示されてきた。東アジアでアルコール依存症に対して予防作用があるとされているALDH 2変異がトリニダードトバゴのインド系とアフリカ系の両方の住民にみられなかった。しかし、細胞質ALDH 1A (ALDH 1A1*1/*2)をエンコードしている遺伝子変異がインド系住民にアルコール依存症が多いことと関連していることが明らかになった。</p>	